

2017年度 事業及び活動報告

1. 認定特定非営利活動に係わる事業報告

定款に基づき事業活動を進めました。今年度は活動及び事業をより多く方に知って頂くために、いろいろなイベントや異業種交流会に出席しました。そこで出会った多く方がWE21ジャパン海老名の存在を知らなかったという事でした。この交流を通じ、来店や新規提供につながりましたが、改めてまだまだ市民に認識して頂けていないことを知る機会でもありました。そんな中で、商工会議所関連でお会いした「株式会社 リコー」の社会貢献クラブFriiWillから社会課題解決のために活動をしている団体として認められ寄附金を頂くことができたことは今後の活動を後押ししてもらう大きな力となりました。

新規提供が昨年より大幅に増加したことは、ボランティア参加で毎月チラシ配布をしたことやFacebookを始めて情報提供を発信したことが大きな要因になったと思います。また、海老名市の資源分別説明冊子に掲載したことで問い合わせが増えています。

売り上げは日々のショップ企画等の工夫もありなんとか前年度に近づくことができました。

しかし、若い世代から高齢者までインターネット売買を楽しむ人の増加や、ファストファッションやカタログ販売などの影響があるのか、衣料や雑貨などの良品の提供が減少しています。私たちはチャリティショップの意義を広めるために、市民へ活動を理解してもらえる機会を増やし、目的に向けて進めていきたいと思っています。

2. 事業内容及び活動内容報告

1) 資源のリユース・リサイクルを推進する事業（リユース・リサイクル事業）

(1) 事業報告

- ① 市民の皆様からの寄付提供品（不要になった衣類、日用品など）を販売し、スタッフと多くのボランティアでWEショップを運営しました。
- ② 安定したショップ業務を展開するため、毎月スタッフ会議を開催し、さまざまな課題について話し合いました。感謝祭やフェアなどのイベントを企画し、理事会に提案し、以下のように実行しました。

2017年度 感謝祭・フェア一覧

実施月	企画内容	売上金額
6月1ヶ月間	夏のご支援・優待券配布期間	
7月1～15日の2週間	夏のご支援・優待券利用期間	405,045円
8月24,25,26,27日の4日間	バッグフェア	265,750円
9月19～30日の11日間	コートマルシェ	103,626円
10月1ヶ月間	秋のご支援・優待券配布期間	
11月1～15日の2週間	秋のご支援・優待券利用期間	484,754円
2018年1月4,5,6日の3日間	初春まつり	94,948円
2月22～25日の4日間	和のもののフェア	420,661円

フェアなどのイベントを開催することで、多くのお客様に足を運んでいただくことが出来ました。また、開催後には反省会を実施し、次年度へ向けて様々な意見交換を行いました。

- ③ 「ショップ業務マニュアル」や「ボランティアマニュアル」、WE21 ジャパンでの様々な研修内容を参考に、新しいボランティアに研修を行いました。
- ④ ショップボランティアの共育や情報の共有化をはかり、WEショップを運営している意義を学ぶと共に、より充実したものにすることができました。また、ボランティア・理事の交流の場として、『他ショップ見学&ランチ de 交流会』を開催し、交流をはかることができました。
- ⑤ ボランティアミーティングをボランティア参加者に毎日午前、午後2回行いました。
毎月の理事会で討議決定された内容で、共有したい事柄を中心に原稿を作成し、伝えました。ボランティアからの意見を聞く良い機会ともなりました。
- ⑥ チャリティショップであることを、様々なツールを利用して発信できました。Facebook ページを開設し、イベントやキャンペーンについて情報を発信し、WEショップで買い物することの意味を伝える努力をしました。
- ⑦ 様々なイベントに参加し、WE21 ジャパン海老名、WEショップえびなを市民にアピールすることができました。
 - ・商工会主催の商工フェア
 - ・まちゼミ
 - ・ほっとフェスタ
 - ・商栄会主催の商栄会まつり
 - ・えびな市民活動センター主催のビナレッジ5周年記念祭
- ⑧ リメイクチーム活動を支援しました。
“WE21 ジャパン海老名 リメイクボランティアに関する申し合わせ”を基にリメイク作品制作及び販売を支援しました。その他、課題が出たときはリメイクチームの会議やスタッフ会議で意見交換を行いました。

まちゼミについては、リメイクチームを中心に行うことができました。

- ⑨ ユースボランティアと職場体験学習を受け入れました。
中学生・高校生を受け入れ、WEショップの役目について伝えることができました。
- ⑩ フォトパネルを活用しました
レジ前にフォトパネルを設置し、各イベントやキャンペーンの告知、支援先の情報を分かりやすくお客様に伝える努力をしました。
お買物の途中や、レジでの支払いの際、多くのお客様に見ていただくことができました。

(2) 活動報告

- ① 企業組合ワーコレ・キャリーを通じエコものセンターを活用しました。
季節外の寄付提供品をストックし、有効な寄付提供品の管理、活用に努めました。
- ② 環境問題に貢献しているナカノ（株）と連携して、衣類に関しては最後までリサイクル化に努めました。 月4回 3,871kg/年間
2017年4月から2018年3月までの12ヶ月間
- *販売品としてショップに出せなかった木綿類は、地域NPO法人の福祉施設へ提供することで、有効活用につなぐことが出来ました。
- ③ ショップで販売出来なかったガラス製品は(有)飯室商店、陶器は木村管工(株)を通じて再資源化に努めました。

内 容	リユース・リサイクル事業 (WE ショップえびな運営)
日 時	通年
場 所	海老名市中央一丁目14番46号 チェリーコート海老名103
従事者人数	スタッフ3人、ボランティア総人数58人
受益対象者	一般市民
収 入 額	7,020,811円
支 出 額	6,135,191円

2) アジアなどにおける市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を通じて支援する事業（民際支援事業）

(1) 事業報告

- ① 支援先の人々の問題解決に向けて、地域の人々の課題解決に向けて、共に考え、共に育ち、共に生きる社会の創造を目指し、海外支援の助成をしました。

海外支援として南スーダンとパレスチナを選び、女性と子どもにこだわった事業に支援金を送りました。今年もチョコ募金に取り組みました。チョコ募金はイラク・福島の子どもたちとシリアの難民を支援するための募金です。新しいお客様がチョコを求めて来店されることもあり、募金額も年々増えています。

クリスマスに合わせてフィリピンの子どもたちにクレヨンをプレゼントするレインボーキャンペーンは9年目になりました。毎年届く子どもたちが描いた絵ハガキは希望を感じる明るい色彩です。

昨年までWE21 ジャパンが主導で募金活動をしてきたアジア・友だち・みらい貯金は各ローカルに任されました。海老名は独自でアフガニスタンの教育支援事業に送りました。カンボジア・シーライツは2014年4月から2017年3月までの出稼ぎによる子どもの人身売買及び児童労働防止事業」の第一期が終了し、「子どもの権利促進プロジェクト」が始まりました。経済の発展と共に働く場所が増え、違法な出稼ぎや人身売買は減少しましたが、児童労働はまだ続いており、新たに現地パートナー「NGO・CCPCR」との協働で進められる新プロジェクトに期待して支援を終了することとしました。

・パレスチナ・ガザ地区

JVC(日本国際ボランティアセンター)・子どもの栄養失調予防事業

支援7年目になります。JVCは、栄養失調の子どもたちに直接支援を届けることから子どもたちをその地域社会が守っていくことができる仕組みづくりの活動に取り組んでいます。14年7月から始まったイスラエルによる大規模侵攻後、15年10月からジャベリヤ市ビルナー ज्याで子どもの栄養失調予防事業を再開しました。16年度もこの事業に取り組み、この事業によって地域保健ボランティアと母親たちの知識と技術の向上が認められ、子どもの栄養状態が飛躍的に改善されました。その実績が認められ、ユニセフとの協力が実現できたことは、ボランティアの自尊心を高め、地元社会の繋がりを強めています。

・貧困なくそうキャンペーン

JVC(日本国際ボランティアセンター)・南スーダン首都ジュバ郊外

「国内難民キャンプでの子どもの就学機会拡大支援と女性の自立支援プロジェクト」

対象地域：ジュバ・マンガデン国内避難民キャンプ場

「世界でいちばん新しい国」、南スーダン。しかし、2013年から続く大規模な紛争により、深刻な人道危機が伝えられています。

JVCは、この国がスーダンから分離独立する前の2006年に首都ジュバで難民帰還支援の活動を始めました。2010年にいったん活動を終了しますが、独立後の2012年、北部ユニティ州のイーダ難民キャンプにて、南北分離に伴う紛争により発生したスーダン難民の支援を開始しました。2016年7月、ジュバで勃発

した戦闘により大量の避難民が発生しました。JVC は緊急支援の実施を決定、情勢がやや落ち着いた 9 月に日本人職員を派遣して避難民に対して食料や生活用品を支援しました。その後、同年 11 月、2017 年 3 月にも職員を派遣して食料や医薬品の支援を実施しています。紛争が続く中、軍・武装勢力による住民への暴力、食料の欠乏と超インフレが続く南スーダン。2017 年度は、ジュバに活動の拠点を置き、日本人職員を定期的に派遣しながら、紛争下を生き抜こうとする人びとへの継続的な支援を行っています。2017 年 12 月には大統領派政府と反政府勢力との間で停戦合意が結ばれましたが、一部の地域では戦闘が勃発し、人々が安心して戻るには程遠い状況です。難民の大多数は、女性と子どもの世帯で、避難生活の長期化が予想される中、不安定な支援に依存するだけでなく、どうやって自分の手で生活を維持するのか、また、子どもたちの教育をどうするのか、切実な課題です。JVC はこのような状況を考慮し、国内難民キャンプの子どもたちの就学支援と女性たちの生活向上活動の支援をしています。

・イヤマンのレインボーキャンペーン (フィリピン) の子どもたちにクレヨンをプレゼント

フィリピンの子どもたちにクリスマスプレゼントとしてクレヨンを贈る「レインボーキャンペーン」は 9 年目になりました。期間を設けて募金の協力をお願いしていますが、今年は 304 人分クレヨンのプレゼントができました。ささやかなプレゼントですが、生まれて初めて自分のクレヨンを手にすることができる機会を多くし大勢の子どものもとに届けられるように今後も継続していきます。

② 東日本大震災復興支援に助成をしました。

3/11 を忘れないキャンペーン (1 月 15 日～3 月 31 日)

3 月 8 日～11 日の 4 日間のショップ売上金、募金、ローカル会計からの支援金と合わせて 2 団体に送りました。今年度は継続支援先として 6 年目になる「母ちゃんず」、4 年目になる子どもの甲状腺検査プロジェクト・いわき放射能市民測定室「たらちね」です。

「母ちゃんず」は 12 月に支援部会員 2 名が「母ちゃんず」の代表と会い、キャンプの開催状況などの聞きとりをしました。6 年目になる保養キャンプは回数を減らし、定員を抑えることで無理のないキャンプになっているようです。参加する側もお客様扱いでなく、共に行動することで関係がより密になったと聞きました。

「いわき放射能市民測定室・たらちね」は、(織田好孝代表) は 2011 年 3 月の原発事故をきっかけに、その年の 11 月にいわき市の主婦が中心となって立ち上げた NPO 法人です。2017 年 5 月に「たらちねクリニック」を開設し診療を始めています。被爆の影響が身体に表れるまでには、時差があります。まさにこのことが震災から 7 年を経た今、検診センターが必要な理由です。

2018 年 2 月に鈴木薫事務局長を招き「これまでの福島とこれからの福島」の WE 講座を開催しお話を伺いました。

・「母ちゃんず」の企画・運営費

「母ちゃんず」は相模原市のお母さんたちが、2011 年 10 月に発足し、2012 年春から保養キャンプを企画、運営している団体です。放射線量の高いところで生

活しているように外遊びができない福島の子どもたちに外遊びを楽しんでもらい、親子でリフレッシュできるような場を提供しています。

今年も2回の保養キャンプを行い7年間で計15回のキャンプになりました。活動を支えるボランティアも増え、宿泊施設の相模原市は減免措置で無料で使用できるようになっています。保養キャンプは短期間でも放射能の低い場所で過ごすことで体内に取り込んだ放射性物質（セシウム）を排出させるといわれています。

・子どもの甲状腺検査プロジェクト・いわき放射能市民測定室・「たらちね」
食材・土壌・身体放射能測定や福島の子どもを保養プロジェクト

震災時18歳以下だった子供を持っている保護者たちの不安に答えるため、画像診断と蝕診による甲状腺検査を無料で行っています。

甲状腺検査のほかに、ホールボディカウンター検査（身体全体の被ばく量の検査）、食品・土・海水・屋内のゴミなどの放射能の測定、β線の測定である。「たらちねクリニック（測定室兼検診センター）」を2017年5月に開設しました。いわき市以外にも出張検査に出かけています。

③ 海外支援助成費及び東日本大震災支援金及び各募金総額 605,077円

2017年度 WE21 ジャパン海老名支援先・支援金額（店頭募金・寄付金を含む）一覧

支援国	支援先	プロジェクト名	金額	実施年数
パレスチナ	JVC パレスチナの活動支援	ガザ:こどもの栄養失調予防事業	156,408円 (内募金6,408円)	7年目
南スーダン	JVC 南スーダン緊急募金	貧困なくそうキャンペーン 南スーダン、首都ジュバ郊外「国内難民キャンプでの子どもの就学機会拡大と女性の自立支援プロジェクト」	73,345円 (内募金10,822円)	11年目
フィリピン	IYAMAN Association. Inc	クリスマス 「レインボーキャンペーン」	15,212円(募金)	9年目
シリア、イラク 日本	ジムネット	チョコ募金	55,773円(募金)	4年目
アフガニスタン	JVC アフガニスタン・ 学校教育支援	アフガニスタン学校教育事業	14,639円 (内募金9,004円)	1年目 (海老名 単独で)
日本	相模原市 「母ちゃんず」	母ちゃんず～福島の子ども たちを守りたい保養キャンプ	138,698円 (内募金7,416円)	6年目
日本	福島県いわき市 いわき放射能市民 測定室・たらちね	食材・土壌・身体放射能 測定や福島の子どもを 保養プロジェクト	140,698円 (内募金7,415円)	4年目
日本	セーブ・ザ・チルドレン・ ジャパン	北九州災害(緊急)	10,304円(募金)	
		計	605,077円 (内募金122,354円)	

④ WE トレード品の取り組みをしました

- ・ジンジャーティ、アシーラ石鹸の取り組みを通年行いました。
- ・「3.11 を忘れないキャンペーン」(1月15日～3月31日)では、いわき市の物産品、宮城県気仙沼市の海産物・スープなどの取り組みを今年度も行いました。3月24日に開催されたビナレッジ祭に「WE ショップえびな」は出店し、復興支援物産として商品の販売をしました。物産品は好評でたくさんの方々にお買い上げいただくことができました。東日本大震災を記憶にとどめ、関心を持ち続けていくために共に歩み続けます。

WE トレード仕入 (2017年4月～2018年3月)

国	WE トレード品	送金先	仕入金額
フィリピン	ジンジャーティ	ウバパス, ダイヨコン ランダバ	38,500 円
パレスチナ	アシーラ石鹸	フレンズオブアシーラ	10,589 円
日本	いわき物産品	いわき食菜館 (株) (福島県)	59,621 円
日本	海産物	(有) ムラカミ (宮城県)	181,910 円
日本	和菓子	菓匠庵 (福島県)	26,730 円
日本	ががエコたわし	げん気ハウス (岩手県)	5,050 円
		計	322,400 円

⑤ 支援部会は、情報交換を含めた共育活動を行い、支援体制を整えていきました。

- ・年9回の部会を開催し、理事会で決定したことを共有するとともに、理事会に責任を持って支援先の提案をしました。
- ・ショップに支援先情報コーナーを通年設置しました。また、年3回のキャンペーンに合わせて、スタッフとともに店内掲示の工夫をしました。キャンペーン中は、支援部会員が参加し、物産品のアピール、募金などの呼びかけをしました。
- ・支援先である相模原市の「母ちゃんず」と話し合いを持ちました。
- ・共育部会と共に WE 講座を1回開催しました。今年度は支援先であるいわき市民測定室「たらちね」の事務局長・鈴木薫さんを招き、「これまでの福島とこれからの福島」の題名で話を伺いました。まだまだ先の見えない被災地ですが、新に診療所を開設するなど、地域に根ざした活動を進めている様子を聞くことができました。

内 容 民際支援事業

日 時 通年

場 所 海老名市中央一丁目14番46号 チェリーコート海老名103

従事者人数 ボランティア、会員 5人

受益対象者 海外支援先の人々、東日本大震災被災地者及び一般市民

収 入 額 534,649 円

支 出 額 947,612 円

3) 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業（共育事業）

(1) 事業報告

① WE 講座の開催・・・開催回数 2 回／年

■ 第 1 回県央地区合同主催 WE 講座・・・通算 50 回目

- (厚木・あやせ・いせはら・海老名・ざま・相模原・やまと)
- ・場所 海老名市文化会館 351 多目的室
 - ・日時 2017 年 8 月 4 日 (金) 10:30～12:30
 - ・演題 「繊維 (ファイバー) リユース・リサイクルの現状と課題」
 - ・講師: ナカノ (株) 秦野・金沢統括所長 藤田修司 氏
 - ・参加者: 45 名

■ 第 2 回 WE 講座・・・51 回目

- ・場所 海老名市文化会館 351 多目的室
- ・日時 2018 年 2 月 5 日 (月) 13:00～15:30
- ・演題 「東日本大震災・原発事故から 7 年～これまでの福島とこれからの福島」 ～現場からの報告～
- ・講師 認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室 たらちね
事務局長 鈴木 薫 氏
- ・参加者 40 名

(2) 活動報告

① 小学校の夏休み中の体験学習・遊びの場の提供を目的に開催されている海老名市各小学校応援団主催の「えびなっ子スクール」に参加
「廃油を使用したローソク作り」

- ・ 7 月 21 日 (金) 海老名小
参加 児童 36 名 ボランティア 7 名
- ・ 7 月 25 日 (火) 上星小
参加 児童 26 名 ボランティア 8 名
- ・ 7 月 26 日 (水) 杉久保小
参加 児童 30 名 ボランティア 8 名

* 作成したロウソクは災害時の明かりや多少の火力になる事も実験をとおして伝えました。又、廃油は海老名市資源課の協力で集めることができました。

② 海老名市社会福祉協議会主催のユース・ボランティアをショップに受け入れました。

- ・ オリエンテーション 7 月 21 日 (金) 15:00～
場所: 海老名市総合福祉会館
ショップにてボランティア参加: 9 名
(受け入れはショップの夏休みをのぞいた期間)
- ・ ユース・ボランティア体験報告会 8 月 21 日 (月) 15:00～
場所: 海老名市総合福祉会館

内 容	共育事業
日 時	通年
場 所	海老名市中央一丁目14番46号 チェリーコート海老名103
従事者人数	ボランティア1名、会員 5人
受益対象者	一般市民
収入額	9,000 円
支出額	42,006 円

4) この法人の事業の広報普及を図る事業（広報事業）

(1) 事業報告

WE 2 1 ジャパン海老名の支援事業及び運動を紹介し、支援を広げていくために「WE 2 1 ジャパン海老名ニュース」の発行や、その他の広報手段を使い広報普及に努めました。

毎月地域に配るチラシをカラーにすることによって、見やすいチラシ作りに努めました。

今年は多く市民にWEショップを知って頂くため、海老名市発行の「資源とごみの分け方・出し方」に有料広告を載せ反響がありました。

① WE 2 1 ジャパン海老名ニュースを年4回発行しました。

Vol 54 発行6月30日(2面) カラー700部

内容 支援先一覧

母ちゃんず代表竹内さんから届いた手紙

レインボーキャンペーンのメッセージを抜粋した

総会報告、WE講座のお知らせ

バッグフェア開催のお知らせ、寄付金、募金の呼びかけ

夏季休業のお知らせ、日曜日営業のお知らせ

Vol 55 発行9月30日(4面) カラー700部

内容 第50回WE講座報告

貧困なくそうキャンペーンのお知らせ、冬のご支援感謝祭のお知らせ

ユースボランティア感想(感想文 夏休みボランティア体験者9名)

えびなっ子スクール報告/アンケート結果

8月バッグフェア報告

Vol 56 発行12月15日(2面) カラー700部

内容 WE講座のお知らせ、商工フェア報告、ほっとフェスタ報告

貧困なくそうキャンペーンの報告

3.11 忘れないキャンペーンのお知らせ、チョコ募金のお知らせ

ショップからのお知らせ(年末年始の休業、和のものフェア、初売り)

Vol 57 発行3月31日(2面) カラー700部

内容 第51回WE講座報告

総会のお知らせ、寄付提供依頼、ボランティア募集

3. 11を忘れないキャンペーン報告

和のもの報告、チョコ募金報告、商栄会祭り報告

- ② 毎月部会を行い、WE 21 ジャパン海老名ニュースやチラシの内容を検討し、理事会に提案しました。
- ③ Facebook を活用し、最新な情報の発信に取り組みました。ホームページは、もう一つの広報手段として有効なものだという認識の下、WE 21 ジャパン海老名の活動やお知らせなどの書き換えを行いました。
- ④ WE 21 ジャパン海老名の活動紹介やショップの場所や各種イベントを市民に知らせるカラーチラシを作成しました。今年度は、ボランティアと共に毎月配布しました。これにより、提供者と来店者の拡大を図ることができました。
- | | |
|-----------|--------------------------|
| ・海老名市内 | 22,450 枚 |
| ・その他店頭で毎回 | 200~300 枚 (年間 約 2,500 枚) |
| ・年間チラシ | 20,000 枚 |
| ・支援チラシ | 1,500 枚 |
| チラシ総合計 | 46,450 枚 |
- ⑤ ショップイベント毎にポスターなどを作成し、お客様へアピールをしました。
- ⑥ 昨年度支援した支援先情報を載せたチラシを作成しました。

内 容 広報事業

日 時 通年

場 所 海老名市中央一丁目14番46号 チェリーコート海老名103

従事者人数 ボランティア、会員 5人

受益対象者 一般市民

支 出 額 132,913 円

5) その他、第3条の目的達成に必要な事業（組織活動）

- ① 理事会に名称を改め、毎月定期的に代表者で起案を検討し、理事会を開催しました。部会及び、関係者からの起案も含め総会で決した事業計画を遂行しました。また提案した議案でも結果が思わしくない場合、改めて提案し直し事業計画が進むようにしました。
- ② WE21 ジャパンと「WE21 ジャパンの目的を達するための合意書」を交わし、定款の目的を達成するための組織活動を行いました。「リユース・リサイクル環境事業委託費」を支払い、使用する倉庫、配送業務、および全国からの寄付品対応に係る業務の経費を支払いました。WE21 ジャパンの理念の実現に向けて連携して活動を進めました。
WE21 物流経費 541,783 円 WE21 商標使用料 120,000 円
WE21 グループ活動推進費 59,000 円
合計 720,783 円（年間）
- ③ WE21 ジャパン海老名の会員へ定期的に運営委員会議事録と海老名ニュース等の機関紙を送付し、情報の共有化を図ると共に会員の活動への参加呼びかけをしました。結果、ニュース配布の協力を得ることができました。
- ④ WE21 ジャパン海老名の活動に支援して下さる会員の目標は達成することができました。
個人会員 102 人 団体会員 4 団体 合計 106 人
- ⑤ 神奈川県指定 NPO 法人格再取得の手続きを行い、2018 年 1 月 1 日付けで指定更新されました。寄附金控除対象期間は 2018 年 1 月 1 日～2022 年 12 月 31 日までとなりました。海老名市の指定も更新できました。寄附金控除期間は県と同じです。現在認定 NPO 法人の更新手続きを行っています。
- ⑥ 海老名市に対して、環境問題解決に向けての活動を行っていること、民際交流・支援を通し平和活動をしていることをいろいろな場面でアピールしました。
- ⑦ 地域における生活クラブ運動グループの「コミュニティ・オプティマム福祉マネジメントユニット会議」「居場所の会」に代表メンバーを送り情報の共有化を図りました。
また居場所の会では子ども食堂活動が始まってメンバーが活動しています
- ⑧ 地域商店会における活動の連携を積極的に実践するため、商栄会祭りに参加しました。また商工会議所を通じての商工フェアに今年も参加しました。
WE ショップの存在を知ってもらうために初めて「ほっとフェスタ」「まちゼミ」にも参加し、異業種間交流ができました。商工会議所会員交流会をきっかけに企業からの助成金申請を行い「株式会社 リコー」社会貢献クラブ Free・will から寄附金を頂きました。

- ⑨ 海老名市主催の環境フェスティバルに今年も参加しました。これをきっかけにショップへの来店者もありました。
チャリティショップであることを大きく掲げ、利潤追求型の店舗との違いをいろいろなイベントに参加し、アピールしました。
企業訪問資料作りを行いました。今後指定と認定を取得していることや税金控除ができることをもっと前面に出し、理解を得ていく必要があります。
- ⑩ 地域大型店（イオン海老名店）の黄色いレシートキャンペーンに今年も参加しました。参加の機会を活かし、不特定の市民へ活動をアピールしました。今年当番を決め順次参加しました。
- ⑪ 昨年、伴走型小規模事業者支援推進事業の診断を受けた結果を生かして新たに作成した5カ年計画目標を達成するため、学んだことを企業訪問の資料作りに活かしました。

内 容	組織活動
個人会費	150,000円（100人）
団体会費	15,000円（3団体）
寄 付	586,285円
収入合計	751,291円
支 出 額	588,781円

*赤字分はリユース・リサイクル推進事業より繰入